

# 因島高校を支援する会

発行 校を会  
因島高 支援す  
会長 竹中啓修  
題字 竹中啓修

## 因島高校を支援する会設立

11月27日(月) 18時30分より、芸予文化情報センターにて設立総会が開かれました。

この会は因島高校PTA、同窓会、因島市PTA連合会が中心になって魅力ある因島高校づくりと因島の教育を地域ぐるみで支援協力しようと設立されました。

この会は近年、因島市内中学校卒業生が市内高校(旧因島高校、旧因島北高校含む)へ進学する生徒が減少してきており、新生因島高校も生徒数減のため、統廃合の対象になりかねないという危機感をいだいて、何回か発起人が集まり、会合を重ねた結果発足しました。

### 入学者が減少

平成元年には、市内中学校卒業生が六二六人おり、市内進学校四九八人(八〇%)、市外進学者一〇三人であったものが、今年平成十二年に至っては、中学卒業生が三四〇人になり、そのうち市内進学者二一〇人(六二%)、市外進学者一三〇人という状態です。むろん、募集定員も割り込んでいる状態です。

### 新しい取り組みを

因島高校もこのままではいけないということで、桶東校長を中心にして、新しい取り組みを始め、PTAも協力して活動しています。通常の補習は従来よりありましたが、春夏の勉強合宿を再開し、また生活指導においては、頭髪指導・服装指導を徹底して進めた結果、正常な姿にもどってきております。

### 総会に三〇〇人出席

設立総会は、因島高校PTA、

現状です。このまま推移すれば、三年後(今の中一)には市外進学者が市内進学者数を上回る逆転現象も起こりかねないのです。そして六年後には、因島高校は一年生二クラスという状況にもなりかねないのです。

### 竹中会長挨拶

花岡孝弘同窓会副会長より開会の挨拶があり、つづいて発起人を代表して竹中啓修同窓会長より挨拶がありました。

因島市小中学校PTA、そして高校の先生方、小中学校の先生方また同窓会からは、市内はもとより、関西や広島からもかけていただき、約三〇〇人の出席者で開催されました。

### 支援する会の設立によせて

校長 桶東愛生

このたび、同窓会、高校PTA、市PTA連合会の三者が中心となって、因島高校を支援する会が、設立されました。

因島市で唯一の全日制高校である「新しい因島高校」は、平成十一年から、旧因島高校、旧因島北高校を統合して、総合学級の高校として一学年七クラス規模の高校として出発いたしました。

しかし、二十年来の市内の中学校卒業生の減少と、毎年百二十人前後の市外流出を考慮すると、六年先には市内中学校の卒業生は二百人前後となり、毎年、県教委の方針によると、一学年二クラス、三クラスの学校は統廃合の対象となっておりますので、十年先に果たして本



校は今の形で存続できるのか、という不安があります。市内中学校の卒業生が、高い交通費を支払って市外へ出くとも、本校へ進学しさえすれば生徒が希望する進路が保障されるような学校になることが期待されております。

このような危機感と期待感に立って、今回の「支援する会」が設立されたものと考えております。学校としても「支援する会」と連携を密にして、生徒、保護者、教職員が一体となり、生徒指導の充実、学力向上への取り組み、地域連携を積極的に進め、地域に開かれた学校として、地域社会に期待され、信頼される学校づくりをしていかなければならないと決意しております。

### 事業計画

- 1. 学力向上対策への支援  
補習(早朝放課後)、勉強合宿(春夏冬休み)への資金的人的支援
- 2. 地域教育家庭教育への支援  
学校スポーツ振興支援
- 3. クラブ活動の充実、地域の
- 4. 依頼等支援
- 5. 教育講演会
- 6. 地域行事への参加支援  
水軍まつりなど地域のまつり行事に生徒も参加し地域

すばらしい指導者に参加の一員であることの自覚等でありますが、これらは、発起人会で検討したもので、よい事業について提案があれば、お願い致します。

### 来賓祝辞

因島市長 村上和弘様

因島の現状を取り巻く実態に心をいたため多くの人が集まってくださったことに感謝いたします。



因島商工会議所副会長 村上祐司様

昨今の教育問題について非常に心配しておりますが、役員のご努力により、本総会ができたことをうれしく思います。

教育は重要なことであり、人材を託する子ども達に対して、人

因島市議会議長 村上博徳様

因島高校同窓会、PTA、因島市PTA連合会が、本市の教育を考慮し発展させていくという態度に感謝します。

市議会も学校教育の充実と向上を図るため十分認識と理解をしております。

因島高校は「総合学科」として統合されましたが、みなさん

材教育のできる学校を期待して

います。若者が定住できるような環境作りがわれわれの役目であり、みなさんの助言をお願いするとともに各界の人たちが力を出し勇気と情熱をもって、汗を出して因島づくりをしていきたいと思います。

因島市教育長 金山和民様

本市に育つ青少年が一人一人自分の能力を存分に発揮し自己実現をはかることが本人も幸せ



その後の総会議事に移り、因島市PTA連合会楠見由活会長が議長に選任されました。最初に会の設立趣旨説明、経過報告について、因島高校PTA村上正副会長より説明がありました。

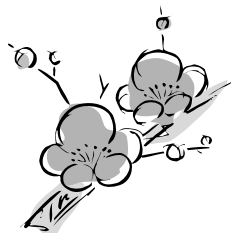
「各団体(高校PTA、同窓会、因島市PTA連合会)が、今までも因島高校の現状や将来について、因島の教育に携わっているという意識が、別々に考え行動していた状態から一つのテーブルについて一緒に行動する事が始まったということ、すばらしい第一歩だ。そして、先生方や教育委員会の人たちも知恵を出し合い、汗を出して取り組んでいこう」と力強く話しました。

更に「因島は以前、家庭裁判所、入国管理事務所、法務局、保健所、県土木事務所があったが、しかし今は無い。この上、高校までなくなっている地域に住むものとしては耐えられない。高校だけの問題ではなく、街づくりの問題としてとらえよう。因島高校は、因島の宝物である。因島から高校を無くしてはいけません。」と訴えました。

因島市教育委員長 岡野孝司様

因島高校を支援する会が誕生したことに、関係者のこの努力に敬意を表します。会誕生の後の、趣旨目的を実現していくための努力が大切であります。

多くの市民が因島高校の現状や将来に憂いをもっています。みなさんが中核となって大きな渦を起してほしい。教育委員会も力を発揮していきたい。みなさんの熱き思いで因島高校をうまく育ててほしいと思います。



### 入会のご案内

みなさんのご支援ご協力をよろしく申し上げます。入会及び入会金の受付は下記へご連絡下さい。

- 個人会員 一口(1,000円)以上
- 法人会員 一口(5,000円)以上
- 因島高校PTA事務局 土生校舎(迫教頭) 1 08452-2-2133
- 重井校舎(松脇教頭) 1 08452-4-1281

### 因島高校を支援する会の役員

役員が次の通り承認されました。

- 会長 竹中啓修 (因島高校同窓会会長)
- 副会長 村上正則 (因島高校PTA会長)
- 常任幹事 河井 實 (因島高校同窓会事務局長)
- 常任幹事 村上 一 (因島高校PTA副会長)
- 常任幹事 岡野長寿 (因島高校PTA副会長)
- 常任幹事 村上 宏 (因島市PTA連合会書記)
- 常任幹事 岡本和信 (因島市教育委員会学校教育課長)
- 常任幹事 河野 實 (因島市立中学校校長会会長)
- 常任幹事 村田積穂 (因島市立小学校校長会会長)
- 副会長 花岡孝弘 (因島高校同窓会副会長)
- 副会長 楠見由活 (因島市PTA連合会会長)
- 顧問 村上和弘 (因島市長)
- 顧問 宮地四郎 (因島商工会議所副会長)
- 顧問 村上博徳 (因島市議会議長)
- 顧問 松浦幸男 (広島県議会議員)
- 顧問 金山和民 (因島市教育長)
- 参与 桶東愛生 (広島県立因島高等学校校長)
- 参与 岡野孝司 (因島市教育委員長)

幹事 市内教育関係者及び各種団体より選出していただきます。

# 講演 広島県教育委員会 砂田勝彦教育部長

設立総会終了後、記念講演がありました。

## 広島県教育の現状と課題

因島高校を支援する会が皆様の御支援のもとにスタートしましたことを県立学校の設置者という立場と致しまして心からうれしく思います。

現在移行措置に移っており、新しい学習指導要領は平成十四年には義務教育で完全に実施されます。その学習指導要領というのは、全国のどこにいても一定の教育水準の教育が受けられるようにということで、国が学校のカリキュラム、その教育課程の基準として定めています。

### 文部省は正指導

ところで、広島県は平成十年五月二十日に文部省の異例とも言える正指導を受けました。本県の教育実態が、学習指導要領等の法令に照らし合わせて見た時に、逸脱した部分があるという厳しい指摘です。つまり公教育としての責任を果たしていないのではないかと、文部省から教育内容に関わりまして七項目、そして学校の管理運営に関しまして六項目の指摘を受けました。

簡単に項目だけ申しますと、教育内容では入学式、卒業式の時での国旗・国歌の斉唱、そして人権学習、これが学習指導要領等から見た時に偏っているのではなからうかというような指摘がありました。あるいは道徳の時間、これが人権等と表示されたり、あるいは学習指導要領が求めている道徳の授業を行っていないのではないかと。あるいは小学校の音楽の授業に国歌・「君が代」の指導をしていないのではないかと。また、一時間の授業を標準とする授業よりも短くしたり、年間の総授業数等についても学習指導要領が示す授業時数より少なくなっているのではないかと。あるいは生徒の学習の記録を残す学習指導要領についても意図的に不記入を

しているのではないかとということでありました。

また、学校の管理運営につきましては、職員会議が最高の議決機関であって、校長が学校の最高責任者としての権限と責任が与えられていないのではないかと。職員団体等の確認書によって校長権限が侵されているのではないかと、こういったようなことを含めまして指摘を受けたわけでございます。

### それから三年目

是正指導一年目、二年目と取り組み、今年三年目を迎えており一定の成果をみております。まず、入学式、卒業式の国旗・国歌については、県立学校は一応完全実施されていますが、式進行中の国歌斉唱時に、足を踏み鳴らすとか、あるいは不起立というような事態があり、批判も寄せられています。

次に授業時数及び単位時間につきましては標準授業時数の確保については、かなりご努力をいただいております。それから職員会議については、校長先生がその権限と責任において学校を運営していく上での補助機関であるという位置づけとしております。市町村におきましてもそれに準じた対応をいただいております。

また校長先生等の権限を制約する確認書につきましては、破棄していただき、適正な教育の基盤づくりを今進めているところであります。今後とも皆様方のご理解と協力を得て、保護者や県民の皆様から信頼される教育の中身づくりをもっともって進めていかなければならないと考えております。

### 教育の中立性

是正にあたり、我々がとっている姿勢は、教育の中立性の確保ということと、全てを公開し

進めていくということでございます。

中立性というのは、法令規則に則って教育を進めていくことと位置づけしております。従いまして、学校や教育行政が主体的に進めていくべきものであるという観点から教育介入の排除ということを強く打ち出しております。

### 教育の公開性

また、公開性というのは、全てを皆様方に説明をさせていただき理解していただき、その代わり支援もしていただくということで、説明責任（アカウンタビリティ）が求められる時代だということでありました。

### 教育改革のキーワード

教育改革を、進める際のキーワードは三点あります。一点目は確かな学力、二点目は豊かな心、三点目は信頼される学校であります。これを基に中長期ビジョン「教育県広島創造」を作成中です。これは、新しい時代に挑戦する元気な人づくり、心豊かに生きる力の育成、生涯学習の推進、そして人と互いに尊重される社会づくり、これらを通して教育県広島を創造していくということを取り組みを今進めているところであります。

### 学力の向上

そこでポイントになる部分を何点が述べます。学力の向上については、平成十一年六月の県議会で、広島県では大学入試センターの試験の結果が業者調べによると低いと広島県学力不振の原因と対応について質問がありました。

これに対して教育長は、次のように答えました。まず、日々の学習指導を充実させ、生徒の教科学力を高める取り組みが必ずしも十分でなかった事を反省しなければなりません。こうした状況を生み出した背景の一つに、学校間格差を生じさせないよう、という考えから教育課程について、教育内容、時間割など画一化する傾向があり、生徒一人ひとりの進路希望を実現する

ために教科学力を最大限伸ばす取り組みも必ずしも十分ではなかった。縮めの言葉として難関校への挑戦も含め、生徒の進学への希望を可能な限り叶えることが出来るように努めることも県立学校等の果たすべき重要な役割だと、ご答弁しました。

これを受けて、議会の方から、学力向上対策事業を承認いただき予算化されました。

### 開かれた学校づくり

次に、開かれた学校づくりの推進についてであります。学校での取り組みについては、皆さん方に理解を得て初めて実を結ぶものだと思っております。先だって「学校へ行こう」という週間を打ち出したところであります。また、学校の評議員制度の要綱をつくり、まず、県立学校十校、七市町村で試行に入っております。

### 人権教育の推進

さらに、人として互いに尊重される社会づくり、人権教育の推進ということも打ち出させていきたいと思います。この点に関わって平成十二年六月議会で、質問があり、県としての姿勢を示しておりますのでご紹介したいと思います。

この質問は「教育長は入学式、卒業式において学習指導要領に基づき、国旗・国歌を適正に実施することが本県教育の基盤づくりの証であるとして、先頭に立つて指導してこられた。しかしながらある地域の校長会から、国歌・国旗の実施と人権教育との整合性を示すようにという要望が出された」と聞くと、人権教育に矛盾するから法令等に定める事柄に反対する、という論理になっている。未だに学校の場で法令等よりも人権教育が優先されるような論理が展開されている背景には、人権教育をあらゆる教育活動の基盤に据えるという考え方を県教育委員会自体が認めていたことがあると思っております。

### 新たな二十一世紀を

文部省の是正指導を受けまして三年になりますが、二十世紀中には、先程述べましたような今までの論理、あるいは善かれと思っ取り組んだ事の中で

法から逸脱するというようなことについては、毅然として整理して、新たな二十一世紀を迎えねばならないというように思っております。

## 地域に期待される因島高校に



因島におきましては平成十一年因島高校と因島北高校、この統合によって誕生しました。それぞれの歴史を持つ学校が一緒にあったわけで、いろんな面で指導上の齟齬を来す場面も結構あったでしょう。保護者の皆様から同じ学校になったのに何故指導が違つたかという意見もあつたと思つております。そういう中で起きたのが残念な事件でしたけれども、対教師暴力であったかと思っております。そういう意味では、これに加えて総合学科ができました。普通科でも就職あるいは各種学校を希望する生徒が非常に多い学校もあります。また専門高校の場合も、上級学校等への進学を希望する生徒も結構多いんです。そういう状況の中で、将来の進路ということをしつかり見据えながら普通科の科目と専門科の科目、この両方を生徒自らが、先生方のガイダンスをもとに、自分の歩む道を選びそのために必要な勉強、その科目が用意できる、これが総合学科なわけです。それで国の方も教員の定数につきましては、五倍の定数をつけるという措置もされております。

### 生徒指導を厳しく

生徒指導につきましても、校長先生に伺いますと、服装指導については如何と思われ状況がありましたが、特にこの十一月からは、重井校舎での服装、頭髪指導、かなり徹底されているようです。違反の生徒は一時帰宅して、改善してもう一度学校に来ないと、そのかわりその抜けた授業については放課後フォローいたしますよという形で取り組まれて、対象者はほぼ皆無に近い状況になっているようです。

### 補習と勉強合宿

教科学力向上につきましても進学を中心とする学校では当たり前と思われておりました勉強合宿を先生方の理解と協力を得て、今年度の三月と八月に実施されております。

### 地域のまつりに参加

補習授業につきましても、土生校舎では早朝、放課後と行なっており、夏休みは盆三日休んだだけと聞いております。

### 隣島からも入学希望

そして地域連携については、水軍まつりを初めとして、積極的に皆様方の仲間に入れてほしいという取り組みをしようとなさっております。

### 授業参観を

ところで平成元年の中学卒業生定数ですが、広島県ではこの年が一番多くて四八七三二人です。それをピークにして減少しつつ、平成十七年にはそれからマイナスイ万二人になるんです。今のままの四十人クラスでいきますと広島県全体で五百クラスいらなくなるわけです。大変なこの時期です。文部省は、定数改善は四十人クラスの人数を減らすというのではなく、個別指導等をする場合についてフォローしようという方向にしております。二十人学級にすれば一気に解消するんじゃないかというのがありますが、そんな甘いものじゃないんです。そういう意味では、因島高校も平成二十年まで現在のような島外進学者が続けば二クラス分の生徒も残らなくなつて、これは大変と

いことですが、ここはむしろ隣の向島からもあるいは尾道からも、それどころか隣の愛媛県から是非入れてくれということとたくさん希望するそういう学校に是非ともして欲しいと思っております。

広域行政を進めようという昨今ですが、広島県内だけの広域行政云々じゃなくて、国のレベルでは県を越えたら何らかまわんと言っているのですから。魅力ある学校を作ればどこからでも来るわけですから、是非とも頑張ってください。

### 先生方にお願ひ

今日は先生方も来ておられます。今、本当に汗を流していたのであります。どうか生徒から見るならば、学びたい学校に是非してください。そして保護者の皆様にとっては是非行かせたい、学ばせたいという学校にして欲しいですし、そしてこうして来ておられる市民の皆様さらには同窓生の皆様が誇れる学校だということに、総合学科の特色を生かした魅力ある学校にしたいとお願いいたします。

### 地域の皆様にお願ひ

最後に地域の皆様方にお願ひいたします。地域の発展は、人づくりにだいたい思っております。やはり県外から当市へ、お仕事を来られる場合も、地域の教育がしっかりと行っていないことになれば、単身での赴任しか来られないんです。極端な言い方をすれば、

「公教育」のオーナーは皆様方です。保護者や県民の皆様がオーナーです。ややもするとこれまでは教育は学校の占有物のようになっている感じがしますが、時代はそうじゃないんです。どうか皆様方の思いや願いを存分に発信していただきましてこの新しい因島高校が本場の意味で地域の皆様から信頼され、愛されるという学校になりますよう、本当に心から祈念をいたしてお願ひいたします。

（この文章は講演内容をもとに事務局が紙面の都合により内容を一部調整し、編集したものです。）